

## 南アルプス市立小笠原小学校 第二回自己評価書

校長： 上田 直人	記述者・職名： 河村 徳仁・教頭
<p><b>学校教育目標</b></p> <p>校 訓「あかるく かしこく たくましく」</p> <p>教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」児童の育成</p> <p>具体目標 (1) 労をいとわず働く子  (2) 自分を明るく表現できる子  (3) 進んで学ぼうとする子  (4) 思いやりがあり、礼儀正しい子  (5) 健康でたくましい子</p>	
<p><b>本年度の学校経営理念と方針</b></p> <p>「喜んで登校し、満足して下校できる」明日が待たれる学校の創造</p> <p>①安全・安心な学校づくりの推進  ②教育の不易と流行の見定めと率先垂範による教育の推進  ③研究研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりの推進  ④楡形地区小中連携をとおして地域が一体となった教育の推進  ⑤学校評価システムによる学校経営の推進</p> <p><b>学校経営目標</b></p> <p>「心を揃えて高め合い磨き合い鍛え合う学校」</p> <p>①心を揃えて高め合う  自らの思いを伝え、聞き、学び、高め合う子  義務教育を見通し教師力の向上を図り学びの質を高める教師</p> <p>②心を揃えて磨き合う  自分を見つめる行動と心を動かす言葉で進んで磨き合う子  相手を思いやる言動を実践し心に寄り添い心を磨く教師</p> <p>③心を揃えて鍛え合う  めあてに向かって挑戦しやりぬき鍛え合う子  安全安心の意識を持ち子供たちを鍛える教師</p>	
<b>I 評 価 方 法</b>	
<p>児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。  質問に対する回答選択肢は基本的に4段階になっている。</p> <p>A：とても・よく～している  B：だいたい～している  C：あまり～していない  D：～していない</p> <p>の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。</p> <p>そこで、A・B・C・Dの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。</p>	

○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5点以上になり、4点に近づいていく。  
○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は1点に近づいていく。  
なお、保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない があるが、これは点数には含めていない。

## Ⅱ 全体評価

- ・児童アンケート・保護者アンケート・教職員アンケート とも昨年度とほぼ同様な傾向を示した。
- ・児童のアンケート結果では、24個の質問項目中、全ての項目で、平均点数が2.5以上のプラス評価となっている。
- ・保護者のアンケート結果では、20個の質問項目中、「ご家庭と一緒に本を読む時間をもうけていますか」「お子さんは宿題の他にも家庭学習（塾や家庭教師は除く）をしていますか」を除く18個の項目で、平均点数が2.5以上のプラス評価となっている。
- ・教職員のアンケート結果では、32個の質問項目中、全ての項目で、平均点数が2.5以上のプラス評価となっている。

以上のことから、小笠原小学校の教育活動が保護者の理解と協力を得ながら効果的におこなわれてきていると考えられる。その成果はアンケートの結果のみならず、児童の普段の学習や生活の様子からも見てとれる。

しかし、マイナス評価の項目（保護者アンケートの二項目）やプラス評価の中でもポイントが低い項目がある。それらについて以下で考察を加えていく。

## Ⅲ アンケートごとの評価

### 児童アンケートについて

児童の回答項目中、マイナス評価（平均点が2.5を下回っているもの）はなかったが、プラス評価の中でも低いポイントの項目がいくつかある。次の4項目である。

- 9「困ったとき相談できる先生はいますか」 3.2
- 11「考えや感想や意見を発表できますか」 3.0
- 13「自主勉強をしていますか」 2.9
- 15「早寝早起きをしていますか」 3.2

#### 【考察及び改善策】

9「困ったとき相談できる先生はいますか」については、休み時間等に、教師が子どもの話を聞ける時間を作るように努めたり、児童が安心して何でも話せる学級環境を整えたりと先生方も努力をしている。しかし、休み時間には丸付や教材準備などしなければならぬ現状もある。なかなか子どもと向き合う時間が取れないジレンマがある。今後休み時間に子どもと一緒に遊んだり、話をしたりする時間を確保できるように、加配要求をし、先生方の空き時間を確保し、丸付や教材準備する時間を確保していく必要があると考える。そうすれば、休み時間、子どもと話をしたり遊んだりする時間が確保することができる。加配が予算的な関係で無理であれば、ボランティアを導入することも考えられる。

11「考えや感想や意見を発表できますか」については、児童が自信を持って発表できるように、まず考えを書かせる時間をしっかりととり、発表の機会を多く作るという工夫を行っているが個人差が大きい。今年度始

めた「あやめっ子タイム」によって、発表力が伸びていくことを期待する。何を言っても受け入れてもらえる雰囲気づくり（学級づくり）を続けていきたい。

13「自主勉強をしていますか」については、全項目中一つだけ2点台であった。学年等の取り組みによって少しずつ定着してきている。家庭への呼びかけも行っている。進んでやってきた児童の内容を紹介することで、取り組む児童が増えてきた学年もある。今後も家庭の協力を得、子ども達の頑張りを認めながら、取り組んでいきたい。

15「早寝早起きをしていますか」については、子どもだけではなかなか改善されない。家庭の協力が不可欠である。早寝早起きの問題は学校生活に少なからず影響を及ぼしている。最近のオンラインゲーム等の問題もあり、学級通信等で呼びかけてはいるがなかなか改善されない現状にある。

### 保護者アンケートについて

保護者の回答項目中、マイナス評価の項目は次のものである。

10「ご家庭でいっしょに本を読む時間をもうけていますか」 2. 2

12「お子さんは、宿題のほかにも家庭学習をしていますか」 2. 3

#### 【考察及び改善策】

10「ご家庭でいっしょに本を読む時間をもうけていますか」については、1年生では、毎週「家読」を宿題にして、親子で一緒に楽しく本を読んでいる。その楽しさが中高学年になっても続くと良いと思う。

2年生では、「家読」の取り組みを進めているが、家庭の意識が二極化していると感じている。学校では、図書の時間以外に、教師の読み聞かせを行い本に親しむ機会を増やす工夫をしている。地道な取り組みをすることが、「家読」の定着につながるのではないだろうか。3年生では個別懇談の話題から、ゲーム（オンラインゲーム）をする子が多く、少なからずトラブルも出ているという課題が出された。「家読」の取り組みと違う時間の使い方が見られる。今後、保護者・学校が連携して、子ども達に読書の重要性や価値を伝えていく必要もあるのではないだろうか。また、より良い成果を求めて努力していくことは大切だが、保護者も忙しく、ゆったり読書ができないという現状もある。その中でこの数字は、全校で読書活動に取り組んでいる成果であると考えられるのではないだろうか。

12「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」については、学年によっては、月の最終週の家庭学習週間の取り組みが定着してきたと感じており、続けることで習慣化を図りたいと考えている。別の学年では、宿題だけでも「多い」と感じている家庭と「もっと増やして」という家庭があり、温度差を感じている。家庭学習の意義や学校での取り組みの様子を学年便り等で伝えながら、保護者に理解してもらい、学校と家庭が連携して家庭学習に取り組んでいきたいと考える。また、児童本人にも、家庭学習の意義や仲間の頑張りを紹介するなどし、家庭学習をするのが当たり前という学校文化を作ることができたら素晴らしいと思う。

### 教職員アンケートについて

教職員の回答項目中には、マイナス評価の項目はなかった。

以下の項目がプラス評価の中でも低いポイントの項目が以下の2つである。

Ⅲ③「個に配慮した効果的な指導に取り組んでいる」 3. 4

Ⅲ④「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」 3. 4

#### 【考察と改善点】

Ⅲ③「個に配慮した効果的な指導に取り組んでいる」については、各学年とも子ども達の発育発達に応じて、いろいろな取り組みを行っている。T T (T 2) の先生が机間巡視し、理解が大変な児童に指導したり、個別に指導が必要な児童を放課後時間をとって特別に指導をしたりしている。先生方は児童全員が分かるように、できるようになってほしい気持ちで、何とかしよう頑張っている。しかし、個人指導をする時間がとれない現状もある。授業の中で個別に声をかけていくのはもちろんだが、今行っている放課後の補習も学年で連携し、一人の教師が複数クラスの補習をするなど、時間をやりくりし、できる限り継続して行きたい。また、授業の中で十分な個別指導を行えるように市教育委員会にお願いし、市単教員や学生ボランティア等の人員を増やし、きめ細かな指導につなげられれば良いと考える。

Ⅲ④「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」については、新指導要領の特徴の一つにもなっている内容であり、児童に付させなければならない力でもある。校内研究で取り組んでいる「主体的・対話的・深い学び」の研究を進め、自ら考え、互いの考えを伝え合う場面を多く取り入れた授業を行って行きたい。思考場面・交流場面・表現場面を授業の中に意図的に仕込む学習を定着させ、実践に繋げていきたいと考える。

#### Ⅳ ま と め

アンケート調査の結果から、例年の教育活動の積み重ねにより、本年度の小笠原小学校の教育活動が効果的なものになっていること、児童が充実した学校生活を送っていることが見てとれる。

各アンケートにおいて、プラス評価が多い結果ではあるが、個々の評価を見ていくと、評価の下がったものやマイナス傾向にあるものもあり見逃すことはできない。評価の下がったものやマイナス傾向の項目の改善に向け、前年度までと同様に、継続的な取り組みを実施していきたいと考える。

また、1時間の授業の充実、学校教育の基本であり、「授業が分かる・できる」ことが、子ども達の学校生活をより良いものにしていくことにつながる。校内研究を中心に新指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業実践を積み重ねていきたい。また、学校全体として取り組んでいる「心をそろえる活動」が定着してきている。更なる高みに向かって全職員で共通理解を持ち一枚岩で取り組んでいきたい。支援が必要な児童についても、情報を共通し全職員で対応していきたい。一人一人の子どもを大切に、一人一人の子どもの可能性を伸ばせるように、教職員みんなで指導していきたいと考える。

更に、今後も学校だよりや学年だよりなどで学校の様子を保護者や地域に知ってもらい、学校・保護者・地域で協力して「子どもたちが喜んで登校し、満足して下校できる、明日が待たれる学校」を創造していきたい。